

令和元年6月4日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02627

研究課題名(和文) バントゥ諸語における従属節の形式と意味に関する比較研究

研究課題名(英文) Microvariation study of subordinate clauses in Bantu languages

研究代表者

米田 信子 (Yoneda, Nobuko)

大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・教授

研究者番号：90352955

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、アフリカ大陸赤道以南に広く分布するバントゥ諸語における従属節の意味と形式を比較分析し、類型化を試みた。その結果、「関係節」と呼ばれる名詞修飾構文を用いて修飾できる名詞の意味範囲は6つのタイプに分けられること、関係節が用いられない場合に用いられる形式にはさまざまなバリエーションがあること、名詞補文(同格関係の名詞修飾節)に「関係節」を用いることができない言語では名詞補文と動詞補文と同じ補文マーカーを用いた構文が用いられる傾向があることなどが明らかになった。これらの成果は、国際学会や国際ワークショップで発表し、論文にまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

バントゥ諸語は広域に分布しているわりに文法的に類似性が高いと言われてきたが、実際にはその中に多様なバリエーションが見られることを本研究は明らかにした。特にこれまでの研究対象が主に単文であったことに鑑み、本研究が従属節に注目したことは、バントゥ諸語における複文研究を前進させるものであり、その学術的意義は大きい。

また本研究を国際共同研究に展開されていくことも目標にしてきたが、研究過程で海外研究協力者たちとの新たな共同研究をスタートさせることができた。本研究を通して国際的な研究ネットワークを拡大し、これまで以上に緊密で生産的な関係にできたことは日本のアフリカ言語学にとって大きな貢献である。

研究成果の概要(英文)：This is a comparative study of subordinate clauses in Bantu languages, spoken in the south of the equator in the African continent, and the purpose of this study is to explore the semantic relations (between head and modifier, between clauses) and the form of subordinate clauses. This study has revealed; (1) the variation in the range of semantic relations of the head nouns which can be modified by the relative clauses, (2) the tendency of the continuity between verbal complements and appositive clauses which can be observed in certain type of languages. The results have been presented at some international conferences, and some papers have been published.

研究分野：言語学

キーワード：バントゥ諸語 従属節 名詞修飾節 動詞補文 複文 マイクロ・バリエーション 国際研究者交流
国際共同研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

バントゥ諸語の比較研究は長年にわたり語彙や音韻を中心に行われてきたが、近年ようやく形態統語論的な文法現象の比較研究がバントゥ諸語研究においても注目されるトピックになってきた。このような研究動向の背景には、比較が可能なところまで記述研究が蓄積されてきたこと、バントゥ諸語研究者間の国際ネットワークが密になり、情報やデータの共有が盛んになってきたことがある。バントゥ諸語は文法的に類似性が高いと言われてきたが、こうした形態統語論的諸現象のミクロなレベルの比較研究を行うことで、バントゥ諸語のなかに見られるバリエーションが少しずつ明らかになってきた。しかしながら、研究の対象は今なお単文が中心であり、従属節に見られる現象が取り上げられることはまれである。そのような状況に鑑み、従属節に焦点を当てたバントゥ諸語の比較研究を行うことにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アフリカ大陸赤道以南で話されているバントゥ諸語の従属節における形式と意味の関係を比較分析し、バントゥ諸語の形態統語論的現象のマイクロ・バリエーション研究に新たなパラメータを設定することを念頭に置きつつ類型化することである。具体的には、名詞修飾節における主名詞と修飾部の関係の類型化、名詞修飾節と動詞補文との連続性の類型化、副詞節における意味と接続形式の区別の類型化をめざした。また本研究を国際共同研究に展開し、国際研究ネットワークの拡大につなげていくことも目的のひとつとした。

3. 研究の方法

データ収集が本研究の要である。対象とするバントゥ諸語の名詞修飾構文、動詞補文、副詞節のデータを収集し、名詞修飾構文の類型化、名詞補文と動詞補文との連続性、副詞節における接続形式を中心に、諸言語のデータの検討を行った。データは主にアフリカ(タンザニア、ナミビア)での現地調査で収集した。その他、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(以下 SOAS)の図書館所蔵の言語資料、および SOAS を拠点に 2013 年に開始したバントゥ諸語マイクロバリエーション研究の国際プロジェクト“Morphosyntactic variation in Bantu: Typology, contact and change”(以下 SOAS 国際プロジェクト)が作成したデータベースから関係するデータを収集した。特に、初年度の 2016 年度前半のサバティカル期間は客員メンバーとして SOAS 国際プロジェクトに参加し、集中的にこれらの言語資料にあたった。さらに国際学会等の機会を利用して国内外のバントゥ諸語研究者にデータ提供の協力を呼びかけた。

4. 研究成果

名詞修飾構文および動詞補文を中心とした従属節に関する研究：名詞修飾構文については、主名詞と修飾節の関係を「内の関係」と「外の関係」に分け、さらに、「内の関係」は主語の関係節化と目的語をはじめとする主語以外の項の関係節化、「外の関係」は同格関係(名詞補文)と因果関係に分けた。それぞれの関係にある名詞を修飾する際に用いられる形式を 20 以上のバントゥ諸語について調べたところ、6 種類のタイプがあることが分かった。その結果をまとめたものが下の表 1 である。これは、いわゆる「関係節」と呼ばれる名詞修飾節を用いて修飾できる主名詞の範囲を示したものである。関係節を用いて修飾できる名詞との関係を「」で表している。表の「×」、すなわち関係節を用いることができない関係にある名詞については、それらを修飾する場合にどのような形式が用いられるのかを調べた。その結果、「×」が付いているところで用いられる形式にはさまざまなバリエーションがあることがわかった。この調

査・分析については、今後さらに多くの言語のデータを収集していく予定であるが、バントゥ諸語の名詞修飾構文の形式と意味関係に見られる多様性が具体的になってきたこと、名詞修飾構文の意味と形式に関するマイクロ・バリエーション研究のために7つのパラメータを提案することができたことは大きな成果である。これらの結果は、新しい言語データを追加しながら研究会や国内外の学会で発表し、さらに論文にまとめて発表した。

表 1: 関係節を用いて修飾できる名詞の範囲

type	内の関係		外の関係		言語例
	主語	主語以外	同格関係	因果関係	
1					ギクユ語、フィバ語、ナムウンガ語、スワヒリ語 (amba) etc.
2				×	スワヒリ語 (amba-less)
3			×	×	ヘレロ語、クウニヤマ語
4	×				ケレウェ語、ベンバ語、ジャンピアニ語、ニャンジャ語 etc.
5			×		ヤオ語、トンガ語
6	×		×	×	ガンダ語

動詞補文については、名詞補文（同格関係）に関係節が用いられない言語において名詞補文と動詞補文に同じ補文マーカを用いた構文が用いられる傾向があることが明らかになった。また、スワヒリ語の名詞修飾構文のデータを体言化の視点から捉えなおすことを試みた結果、これまで関連づけられることのなかったスワヒリ語の2種類の名詞修飾構文（amba 構文と amba-less 構文）と動詞補文の間に連続性が見えてきた。これらの結果についても研究会や国内外の学会で発表し、論文にまとめた。条件節については、発表には至らなかったが、現地調査でデータを収集し、現在はその分析を進めている。

国際共同研究への展開：SOAS 国際プロジェクトに参加している間はプロジェクトメンバーと常にディスカッションを行ってきたが、それをきっかけに新たに複数の共同研究をスタートさせることができた。そのひとつは複文の研究から派生した reduplication と verb doubling に関する研究である。2017 年度に3か月間ロンドン大学 SOAS から Hannah Gibson 氏を日本学術振興会外国人特別研究員（欧米短期）として迎え、このテーマで共著論文を書きあげた。その他、主節と従属節の主語のふるまいの違いから発展した主語のプロパティに関する共同研究、節接続に関する共同研究も始めた。前者については2019年度からの科研の課題として申請し、採択された。

国際的な発信：本研究2年めにあたる2018年度には、世界言語学会会議(ICL20)、国際バントゥ諸語学会(Sintu7)、世界アフリカ言語学会議(WOCAL9)、国際バントゥ祖語学会などアフリカ言語学にとって重要な国際学会が複数開催されたため、国際的な成果発信の強化も本研究の目的のひとつにしていた。2018年度にはこれらの学会で計6本の口頭発表を行った。また、で挙げた Hannah Gibson 氏との共著論文の他、Judith Nakayiza 氏（マケレレ大学、ウガンダ）とも共著論文を執筆し、2019年度中には出版される予定である。海外研究協力者である Lutz Marten 氏（ロンドン大学、英国）、森本雪子氏（ベルリン・フンボルト大学、ドイツ）との共著論文も現在執筆中である。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

1. GIBSON, Hannah and Nobuko Yoneda. "Functions of verb reduplication and verb doubling in Swahili. " *The Journal of Asian and African Studies*,96. 5-27. 2018. 査読有
http://repository.tufts.ac.jp/bitstream/10108/92788/1/jaas096001_ful.pdf
2. 米田信子. 「日本語の視点からアフリカ諸語を見る - 日本語とバントゥ諸語の対照研究 - 」『*適塾*』50, pp.45-52. 2017. 査読無
3. 米田信子. 「ヘレロ語とスワヒリ語の限定を表すとりにたて小辞に関する試論」『*スワヒリ&アフリカ研究*』28, pp.72-90. 2017. 査読有
<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/66376/?lang=0&mode=2&opkey=R154471573826767&idx=19>
4. YONEDA, Nobuko. “Event integration patterns in Herero: The case of motion event components.” *Asia and Africa Languages and Linguistics*. 10. pp. 219-244. 2016. 査読有
<https://core.ac.uk/download/pdf/41886447.pdf>

〔学会発表〕(計 12 件)

1. YONEDA, Nobuko and Yukiko Morimoto. “Proto-Bantu subject and topic.” International Conference on Reconstructing Proto-Bantu Grammar @University of Ghent, Ghent, Belgium. (2018 年 11 月 22 日) . 招待
2. YONEDA, Nobuko and Judith Nakayiza. “Multiple object constructions in Ganda.” The 9th World Congress of African Linguistics. Mohammed V University of Rabat. Rabat, Morocco. (2018 年 8 月 26 日) 査読有
3. MORIMOTO, Yukiko and Nobuko Yoneda. “Cross-Bantu Variation in the Properties of Subjects.” The 9th World Congress of African Linguistics. Mohammed V University of Rabat. Rabat, Morocco. (2018 年 8 月 25 日) 査読有
4. YONEDA, Nobuko and Yukiko Morimoto. “Degrees of Topicality in Bantu Subjects.” The 7th International Conference on Bantu Languages. @The River Club Mowbray Cape Town, South Africa. (2018 年 7 月 10 日) 査読有
5. YONEDA, Nobuko and Kumiko Miyazaki. “Exclusive particles ‘only’ in Swahili - *tu* and *peke yake*.” The 7th International Conference on Bantu Languages. @The River Club Mowbray Cape Town, South Africa. (2018 年 7 月 9 日) 査読有
6. YONEDA, Nobuko. “Exclusive focus sensitive particles in Herero (Bantu R31)” The 20th International Congress of Linguists. @ The Cape Town International Convention Centre, South Africa. (2018 年 7 月 5 日). 査読有
7. 米田信子. 「スワヒリ語の名詞修飾節 - 2 種類の「関係節」の比較から - 」Nominal Festival 3. 大阪大学豊中キャンパス. (2017 年 7 月 8 日). 招待
8. 米田信子. 「ガンダ語の多重目的語構文 - 3 つの目的語の現れ方 - 」日本アフリカ学会第 54 回学術大会 . 信州大学 . (2017 年 5 月 20 日) . 査読無
9. 米田信子. 「バントゥ諸語の名詞修飾構文 - 意味関係と形式」Prosody and Grammar Festa. 国立国語研究所. (2017 年 2 月 19 日). 招待
10. 米田信子. 「バントゥ諸語の関係節に見られるマイクロ・バリエーション」日本言語学会第 153 回大会 . 福岡大学 . (2016 年 12 月 3 日) . 査読有

11. YONEDA, Nobuko. “Noun-modifying construction: the forms and the head-modifier relation.” The 6th International Conference on Bantu Languages. ヘルシンキ大学, ヘルシンキ, フィンランド. (2016年6月22日). 査読有
12. YONEDA, Nobuko. “Forms and functions of noun modifying clauses in Bantu languages.” Linguistics Departmental Seminar. ロンドン大学 SOAS, ロンドン, 英国. (2016年5月3日). 招待

〔図書〕(計 4 件)

1. SHINAGAWA, Daisuke and Yuko Abe (eds.), Nobuko Yoneda, 他 8 名. ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies. *Descriptive materials of morphosyntactic microvariation in Bantu*. 2019. 総ページ数 439. (担当: “Ganda” pp. 357-393, Judith Nakayiza との共同担当, “Matengo” pp. 418-439).
2. PARDESHI, Prashant & Taro Kageyama (eds), Nobuko Yoneda 他 35 名. Berlin: De Gruyter Mouton. *The Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*. 2018. 総ページ数 722. (担当: “Noun-modifying constructions in Swahili and Japanese.” pp.433-452).
3. TSUNODA, Tasaku (ed.), Nobuko Yoneda, 他 11 名. Berlin: De Gruyter Mouton. *Levels in Clause Linkage: A crosslinguistic survey*. 2018. 総ページ数 892. (担当: “Herero.” pp.791-846).
4. HYMAN, Larry and J. van der Wal. (eds.), Nobuko Yoneda, 他 16 名. Berlin: De Gruyter Mouton. *The Conjoint/disjoint Alternation in Bantu*. 2017. 総ページ数 458. (担当: “Conjoint/Disjoint Distinction and Focus in Matengo (N13).” pp.426-452).

6 . 研究組織

(2)研究協力者

研究協力者氏名： 牧野 友香 (大阪大学大学院言語文化研究科、博士後期課程学生)

ローマ字氏名： (Makino, Yuka)

研究協力者氏名： Marten, Lutz (ロンドン大学 SOAS、教授)

ローマ字氏名： (Marten, Lutz)

研究協力者氏名： Bostoen, Koen (アントワープ大学、教授)

ローマ字氏名： (Bostoen, Koen)

研究協力者氏名： 森本 雪子 (ベルリン・フンボルト大学、研究員)

ローマ字氏名： (Morimoto, Yukiko)

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。